



「どこの中小企業も独自の技術を持っているはず。外に見せたくないが、発想を変えて特許を取り技術力を示している」と話すのは、板金加工業の津田工業（各務原市金属団地）の津田義久社長（57）。

1963年創業で、2015年に2代目の社長に就任。溶接なしで、リベットなどで固定する独自

近況 独自の技術開発に注力

技術が強みだ。近年は自社技術を公開する「オープン戦略」を推進。フォークリフトで運搬し、体に負担なく、大量のスクラップを運べる反転機能付きコンテナボックス「フォークるン」は22年に国内特許を取得。製品投入に向け、米国や中国、英国、ブラジルなど11カ国でも特許を取得した。

従業員5人。「うちの規模では大手の二次外注。不景気が来ると、内製化されてしまう」と話し、自社開発製品を持つ重要性を強調する。「大手がやらない加工方法、ニッチなやり方を考え、優れているものを作っていないといけない」と力を込める。